



みなさまの温かなお気持ちやご支援、いつもありがとうございます。

2023年度理事会と総会が6月16日（金）に開催され、2022年度の事業報告・決算報告と2023年度事業計画・予算案が承認されました。（事業報告と決算報告は4面に）

7周年記念イベントを8月26日（土）に開催します。今回の会場は、栄ガスホールです。（詳細は、同封のチラシをご覧ください）

寄付

<ご寄付>

公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団から、2022年に引き続き寄付金をいただきました。3月14日に毎日新聞社にて贈呈式が行われ、長期入院の子ども達や家族を支える市民団体と、交流できました。

名古屋シティライオンズクラブ主催のチャリティコンサートが3月17日開催され、そのチケット売り上げからご寄付をいただきました。

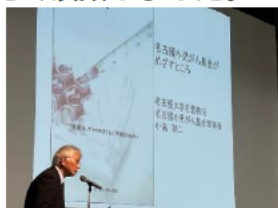
岡崎フォレスト・名古屋シニア・半田・武豊多治見・西尾東ライオンズクラブ様、女性団体*FWT様からご寄付をいただきました。

（*タンスに眠る外貨を集めて日本円に替え寄付をする活動をしている団体）

初めての遺贈がありました。後見人の弁護士の方から連絡があり、ありがたく頂戴しました。

<講演>

5月23日ライオンズクラブ国際協会 334-A 地区主催の講演会に、理事長小島勢二が当基金の活動紹介や新しい治療法の応用について話させ



ていただきました。受付に置かせていただいた募金箱にたくさんのお気持ちをいただきました。

5月27日岐阜県高山市にて「子どもの命を守り、誰もが希望を持って生きられる地域を目指して」という小児がん支援チャリティイベントがあり、理事長小島勢二が当基金の願いと目指すところを講演させていただきました。



高山でこのようなイベントは、初めてとのことで、地域で活動している子どもにかかわる団体の方や、患者ご家族の方などの

協力で、温かな想いのこもったイベントとなりました。会場に置かせていただいた募金箱にたくさんのお気持ちをいただきました。

イラク医師の研修を支援

20年前、イラクでは白血病と診断され長期生存した患者は一人もいませんでした。

日本の白血病治療技術をイラクに持ち帰るために、名古屋大学小児科で研修したアサード医師の悲願だった骨髄移植センターが、この秋開設されることになりました。2人の医師の研修が6月中旬から始まります。7周年イベントに参加していただく予定です。（詳細は、同封のセイブ・イラクチルドレン・名古屋のニュースレターをご覧ください）

医師への夢を実現

ニュースレター4号と5号で紹介した孫思佳さん、板倉京平さんが、医師国家試験に合格しました。小児がんサバイバーである彼らは、この春から勤務医として働き始めています。



再発・難治性神経芽腫に対する CAR-T 療法

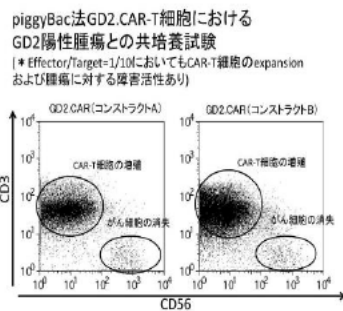
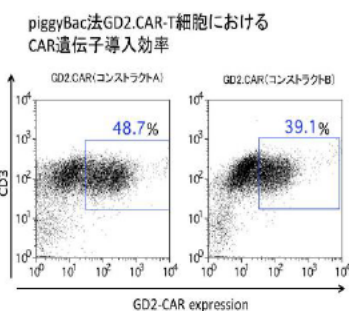
名古屋小児がん基金理事
名古屋大学名誉教授
小島勢二

神経芽腫（*）は、小児がんのなかでは急性リンパ性白血病に次いで死亡数も多く、名古屋大学もその治療法の開発に力を注いできました。進行性神経芽腫に対しては、化学療法と手術に加え、造血幹細胞移植、放射線治療、GD2抗体を併用した総力戦が行われています。GD2は神経芽腫の細胞表面に発現している抗原で、急性リンパ性白血病におけるCD19抗原と同様に、CAR-T療法の標的となると考えられています。（*体幹の交感神経節や副腎髄質などから発生する小児がんの1つ）

最近、イタリアのローマにあるバンピーノ・ジェス小児病院から再発および治療抵抗性神経芽腫に対するGD2-CAR-T療法の治療成績が報告されました。再発あるいは化学療法を受けるも寛解に至らなかった27人の神経芽腫患者を対象に、GD2-CAR-Tを投与したところ、26人において、投与開始から最長30ヶ月、末梢血中にCAR-T細胞が検出されました。

9人に完全反応、8人に部分反応が見られ、治療後3年生存率は60%、無病生存率は36%でした。至適な細胞量を腫瘍量が少ない時期に投与することでさらに治療成績の向上が期待されます。

名古屋大学小児科でも、非ウイルスベクター法によるGD2-CAR-T製剤を開発中です。GD2は、神経芽腫だけでなく脳腫瘍や骨肉腫にも発現しており、これらの腫瘍も治療の対象となります。（図は名大におけるGD2-CAR-T療法の開発）



高橋教授は、4月にパリで開催された学会で、早速、バンピーノ・ジェス小児病院のDe Bufaro先生と日本におけるGD2-CAR-T製剤の開発について協議してきました。名古屋小児がん基金は、一刻も早くGD2-CAR-T療法が必要とする患者さんのもとに届くように、名古屋大学の研究をサポートします。

新しい治療法「CAR-T細胞療法」がタイで使われ成果をあげる

名古屋大学小児科教授
高橋義行

白血病、悪性リンパ腫、がんの治療として遺伝子改変T細胞療法（CAR-T療法）が、日本では薬事承認されていますが、1回の投与価格が3,000万円以上と非常に高額です。

そのため、大変有効な治療にも関わらず多くのアジア諸国ではCAR-T療法は今だに行われていません。

製造コストを下げるために、これまでのウイルスベクター法ではなく、名古屋大学では酵素ベクター法によるCAR-T製剤の製造法を開発して臨床研究を行っています。

2018年名古屋大学は、タイのチュロンコン大学からの要請を受けてCAR-T細胞の製造技術が無償で提供し、2人のタイ人技術者が名大で研修を受け、2020年からタイで臨床試験を開始していました。

これまでにタイで治療を受けた5人の患者さんのすべてに治療効果が得られました。

さらに、大量化学療法+自家末梢血幹細胞移植をしても4回再発していた悪性リンパ腫の患者さんに対してCAR-T細胞を投与したところ、15cm以上の巨大な腫瘍と多発転移が全て消えてしまい、1年超えた現在も、無治療で再発のない患者さんも経験しています。

3月27日、現地を訪れ、普通の生活に戻れている患者さんに対面しました。私たちが開発した治療法が他の国でも使われ、人々が喜んでくれているのは、感無量です。

EBウイルスが起こすがんを根絶する研究

名古屋市立大学ウイルス学教授
奥野友介

EBウイルスは、ほぼすべての人に感染しているウイルスです。



ほとんどの人には、風邪や一過性の病気（伝染性単核球症）を起こすだけの大きな害がないウイルスですが、ごく一部の人にがんを発症させます。

がんを起こす他の病原体であるピロリ菌、肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス等には、予防法や治療法があるのに対して、EBウイルスにはそのいずれも存在しません。

また、ほとんどの病原体が1種類のがんを起こすのに対して、EBウイルスは多くの種類のがんに関連します。小児がんであるバーキットリンパ腫（*）もこれに含まれます。

現在 私は、おそらく多くの研究者が取り組んで失敗してきたテーマなのですが、EBウイルスが起こすがん、あるいはEBウイルスそのものを世界からなくす（根絶する）治療法の開発に取り組んでいます。このウイルスに限られた種類の細胞にしか感染できない理由や、人に生涯に渡って何十年も感染を維持できる仕組みはあまり分かっていません。これらの理解を深めることで、EBウイルスを体から排除したり、場合によっては世界から根絶する治療法に結び付けようとしています。

（*悪性リンパ腫のうち非ホジキンリンパ腫に分類される高悪性度のB細胞リンパ腫。大人は1.2%だが、こどもは25~40%の発症）

NPO 法人 愛知こどもホスピスプロジェクト

Q：一般的なホスピスとどう違うの？

末期がんなどの方が、穏やかな最期を迎えるための医療施設であるホスピスと、「こどもホスピス」は違います。

「こどもホスピス」は、生命を脅かされる病気や障害のあるこどもときょうだい・家族の第2の我が家として、発病時から継続して、願いを、そして存分に生きることを叶える場所です。

遊びや教育・音楽・芸術を通して、こどもとしての時間と成長・発達を保障する場所として存在します。

Q：日本には、こどもホスピスはあるの？

2012年に淀川キリスト教病院内に開設されたのが始まりで、医療や福祉の制度から独立したコミュニティ型として2016年に大阪市にTSURUMIこどもホスピス、2021年に横浜こどもホスピスが開設されました。

現在、東京、福岡、長野、沖縄、愛知で設立に向けて各々が活動しています。

Q：愛知こどもホスピスプロジェクトとは？

2022年から愛知県にこどもホスピスをつくる準備が始まりました。

2023年3月18日、医療・教育・福祉・行政・企業関係者や学生に呼びかけ、多くの方に知ってもらい、支援者の輪を広げることを目的にシンポジウムを開催しました。

中心になっているのは、小児がん経験者の長期フォローをしている看護師・こども主体を支えるチャイルドライフスペシャリスト・医師・患者家族たちです。

こどもホスピス建設までの道のりはなかなか大変ですが、「今を存分に生きる、一緒に」を目標に、寄付を募り、こどもと家族とともにある活動をしています。

